

令和4年度 豊かなむらづくり全国表彰事業
東北ブロック受賞事例の概要

【農林水産大臣賞】

農地を守り、地域の農業・農村を次代につなぐ

○団体名 のうじくみあいほうじん 農事組合法人しみず（代表理事 いしやま 石山 ようこ 容子）

○所在地 ひろまきし 青森県弘前市

○むらづくりの背景・経緯

弘前市清水地区は、りんごと水稲の複合経営が多い、積雪寒冷の農村地帯であり、平成20年代以降は、人口減少や高齢化の進行により、水田等の耕作放棄の増加や地域行事中止など、農村機能の維持が難しい状況になっていた。

こうした中で、地区の将来に危機感を感じた若者3名が、それまでの職を辞して、平成23年に「弘前清水みらい組合」（当法人の前身組織）を設立し、遊休農地の再生から地域の暮らしを守る取組へと発展する、地域で支え合う持続可能なむらづくりの活動を始めた。

○むらづくりの内容

（1）農業生産面

遊休農地の再生や農地の集積を積極的に図り、地域の約8割の水田を集約した大豆の大規模生産を実現した。このため複合経営の農家は水田を預けることでりんご生産に集中でき、地域全体での生産体制の効率化と、遊休農地の発生防止につながっている。

また、野菜の生産にも取り組み、地域の女性や高齢者、障害者の雇用を生み出したほか、遊休化していた施設を活用したりりんごジュースの加工作業の受託を始め、りんご農家の6次産業化を後押しし、冬場の新たな収入源となっている。

さらに、地域の若手農業者を対象とした栽培技術や経営管理に係る「勉強会」の開催や、新規就農者への技術指導、スポーツ少年団などを対象とした農作業体験会を開催し、持続可能なむらづくりを見据えた担い手の確保・育成に取り組んでいる。

（2）生活・環境整備面

当法人が中心となって、同地区の久渡寺山周辺の観光・文化的資源、地域の産業を総合的に発信する新たなイベントを開催し、地域内外の交流の場が生まれたほか、子供達が地域資源に触れる機会になり、地区の活性化と地域資源の次代への継承につながっている。

また、これまで農家だけで行ってきた畦畔や土手等の草刈りを、地域住民も交え、地域全体の環境整備活動として実施している。

さらに、当法人の農業機械等を活用し、一人暮らしの高齢者宅や農道の除雪を無料で実施し、地域住民の生活支援につながっている。



しみずのスタッフ